



首都圏
自然歩道

関東ふれあいの道

栃木県

24

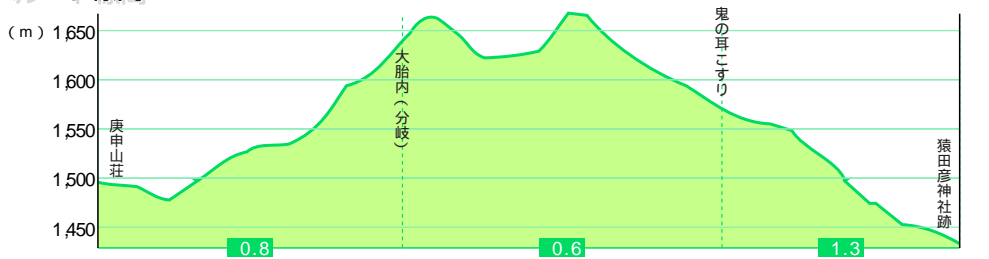
お山巡りのみち

3.4km

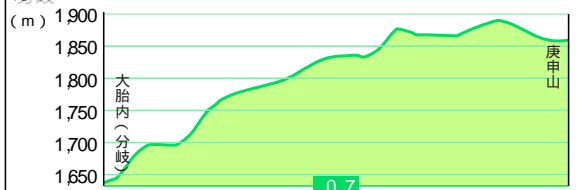
踏破認定の対象からは除外されています。

このみちは、数々の奇岩・怪岩の林立する独特な風景の中をチェーン手すりや吊橋を伝いながら行く、登山経験豊富な上級者向けのコースです。庚申山一帯は、その昔、日光修験道の修行地でした。現在でも庚申山の開祖である勝道上人（しょうどうしょうにん）の行場跡が残っています。途中、親しらず子しらず、鬼の耳こすり、扇岩等危険な箇所が多数あります。落石に十分注意して無理せず通行してください。また、雨の日は滑りやすく、滑落の危険があるのでお山巡りは中止してください。

ルート標高



分岐



コース周辺の見所



コウシンソウ

1890年、庚申山で発見されたため山の名前をとって命名された食虫植物です。自生地は栃木県と群馬県にあるごく一部の山の垂直な崖であり、常に霧が流れて寒冷多湿な場所に限られます。いくつかの群落を形成するのは庚申山の数箇所のみであり、庚申山の自生地は国の特別天然記念物に指定されています。6～7月に高さ5cm前後の花茎を伸ばし、薄紫色の直径5～10mmほどの花を咲かせます。



シロヤシオ

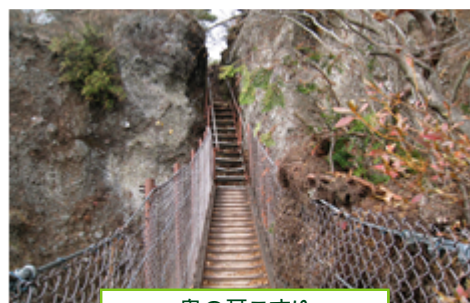
東北から近畿、四国にかけての太平洋側の山地の主に岩場に生え、高さ4～6mになり、よく分枝します。5～6月、ピンク色のアカヤシオが咲き終わる頃、葉の展開と同時に枝先から純白の可愛い花を1～3個咲かせます。「ヤシオ」とは染料に何度もつけてよく染めることを意味する「八汐」という言葉に由来するといわれています。



一の門



めがね岩



鬼の耳こすり

庚申山は、江戸時代から明治にかけて庚申講登山が盛んに行われてきた信仰の山です。数々の奇岩・怪岩と険しく迫力のある岩稜は、今日でも神秘的な雰囲気を漂わせています。

日本の民間信仰で、庚申の夜に神仏を祭って寝ないで徹夜する習俗のことを「庚申待（こうしんまち）」といい、それを行う集りのことを「庚申講（こうしんこう）」といいます。

問い合わせ

栃木県環境森林部自然環境課 自然公園担当
栃木県県西環境森林事務所 環境企画課
日光市役所足尾総合支所 観光課

〒320-8501 宇都宮市壺田 1-1-20 TEL.028-623-3206
〒321-1263 日光市瀬川 51-9 TEL.0288-21-1180
〒321-1523 日光市足尾町松原 1-19 TEL.0288-93-3116